



川越志政会 倉嶋真史
食べられる景観について

24



問エディブル・ランドスケープ（食べられる景観）の取り組みをまちづくりの手法に取り入れることの見解は。

答都市計画部長 エディブル・ランドスケープの取り組みについては、プランターや土地の一部を活用することにより、広い土地を必要としない手軽な取り組みも可能であることなどから、良好な都市景観の形成に向けた市民参加型のまちづくりの手法の一つであるものと認識している。多様な分野にも関係するものであることから、関係部署との連携を図りつつ、効果や課題を整理した上で、取り組みの動向等を注視ながら、検討していくことが適当であると考える。

問エディブルランドスケープ



初雁自由政令会 吉野郁恵
思いやりと自転車交通安全

26



問歩行者も、自転車・自動車の運転者も、それぞれが互いに思いやりを持って、交通ルールを守り、安全で安心なまちにしていくことが必要だと考えるが、市の考えは。

答市民部長 小中学生から高齢者まで、あらゆる世代を対象とした交通安全教育を引き続き実施とともに、広報紙、ホームページ、SNSなど、さまざまな媒体による広報活動や、関係機関、関係団体と連携した交通安全キャンペーンなどを展開し、交通ルールの遵守と思いやりを持って互いを尊重する交通マナーの啓発を推進することにより、人優先の交通安全思想を基本とした交通安全意識の高揚を図っていきたい。

問自転車の交通安全



初雁自由政令会 海沼秀幸
解体工事独自の指導基準を

28



問解体工事は、建物の倒壊による死亡事故や通行人被害、アスベスト暴露などの重大災害にもつながり、全国的に事故事例が多いが、市独自の指導基準を整備する考えは。

答都市計画部長 危険性が高い解体工事については、建設業法では業者に必要な指示や営業停止を、建築基準法では市長が必要な措置を命ずることができ、建設リサイクル法では県の指針を踏まえた助言等が可能である。これらに基づき、必要な指導等をしており、市独自の指導基準を定めるべき固有の事情はないと考えるが、工事の安全確保は大変重要であると認識しているため、今後も関係部署と連携し関係法令に基づき適切に対応していく。

問空き蔵の活用

問解体工事の安全確保



無会派 川口啓介
指定避難所を増やせないか

25



問本市では、公民館等を避難所に指定しておらず、他の中核市と比べ指定避難所も指定緊急避難場所も少ないのであるが、増やしていく考えはないのか。

答危機管理監 自然災害が激甚化・頻発化し、全国各地で大規模な災害が発生している現状を踏まえると、本市としても指定避難所および指定緊急避難場所の数を増やすことは大変重要であると認識している。これまで、状況に応じて自主避難所として開設してきた市内18カ所の市民センター併設館を含む公民館を、新たに避難所および避難場所とするよう進めている他、駅周辺のホテルなど民間施設についても、今後協議していきたいと考える。

問他市との比較で見る川越



川越志政会 吉敷賢一郎
学校開放のエアコン使用は



問来年度までの全ての市立小中学校体育館へのエアコン整備に伴い光熱費の増大も懸念されるが、今後の学校開放事業でのエアコンの使用料金について、市長の考えは。

答市長 小中学校体育館へのエアコン設置は、小中学校が避難所機能を有するということも踏まえ、学校教育および防災の観点から、環境改善のために整備を進めている。学校開放事業でエアコンを活用することは、夏季の熱中症予防への効果が期待され、サービスの向上や事業のさらなる充実が図られることから、発生する光熱費の実費相当分は、負担を求める方向で検討を行っている。

問学校開放

問個人情報



初雁自由政令会 中原秀文
学童保育室を夜7時までに



問保護者から学童保育室は18時半まで仕事に影響が出るとの声を聞いたが、保育園が19時まで開所していることを踏まえ、学童保育室の利用時間も延長できないのか。

答教育総務部長 学童保育室の利用時間の延長については、勤務時間の延長に伴う支援員の確保や延長保育にかかる保護者の費用負担などの課題があることから、実施には至っていない状況である。しかしながら、多くの保護者から、市の保育園と同様に19時までの開室の要望が寄せられていることから、現在、支援員の確保など、利用時間の延長について検討しているところである。

問道路の冠水対策

問児童を取り巻く環境整備